

パレスチナを知る キーワード

宗教？民族？国境？

パレスチナで起きていることは、イスラム教徒とユダヤ教徒の問題ではない。

パレスチナにはイスラム教徒、キリスト教徒、サマリア人、どの宗教も信仰しない人など、多様な人が住んでいる。

ユダヤ人、あるいはイスラエル人で、パレスチナ占領に反対している人もいる。

対等な二つの国が国境を争っているわけではない。

2023年10月7日以降の ジェノサイド

2024年9月13日 OCHA

ガザ

- ・死者 41,118人
‘24.8.1.現在、死者32,280人の身元が確認され
そのうち10,627人がこども(うち1歳以下663人)
- ・けが人 95,125人
- ・行方不明者 10,000人以上
- ・190万人(人口の90%)が避難生活中

ヨルダン川西岸地区

*2024年9月11日 OCHA
**2024年8月31日 UNICEF

- ・死者 *674人(こども**156人)

‘24年9月現在: ガザの人々は家族や友人を失い、手や足の切断、麻酔なしでの帝王切開や手術、複数回の避難などを強いられ、ジェノサイドが続いている。

同時に、西岸地区でのパレスチナ人への暴力(急襲、不当拘束、ドローン攻撃、空爆など)や強制排除もエスカレートしている。

でも、できごととは10月7日に始まったわけではありません。パレスチナ人は何十年も迫害され人権を奪われてきました。

パレスチナ

音楽、文学、建築など、多彩な文化と資源がある地域。食べものでは、オリーブ、ホンモス、ファラフェル、マクルーベなど。オリーブの木はなくてはならないもので、樹齢何百年ものオリーブの実から、オイル、ピクルス、石鹸などを作る。

1916年 サイクス=ピコ協定

オスマン帝国下にあったパレスチナを含む中東地域をイギリス領とフランス領に分割するという、イギリス、フランス、ロシアの協定。

パレスチナと難民

西岸地区、ガザ、周辺国に住む多くのパレスチナ人には国籍がない。多くのパレスチナ人が1948年、1967年、またそれ以後も住んでいた場所を追われ、難民となっている。

パレスチナ人 全世界 約1430万人(うち難民数)

- ・西岸地区 約319万人(約87万人)
- ・ガザ 約217万人(約147万人)
- ・アラブ諸国* 約640万人(約336万人)
*ヨルダン、レバノン、シリアなど
- ・イスラエル 約170万人(イスラエル国籍を持つが、多くはイスラエル社会で差別されている)

ナクバ Nakba

1947年～1949年、第一次中東戦争。1948年、イスラエルの建国。シオニスト民兵によりパレスチナ人75万人が家々を追われ、町村を破壊された。外出していて自宅に帰れなくなった人たちも多く、かれらが自宅の鍵を持ったまま難民となったことから、鍵はパレスチナ人のシンボルでもある。

この戦争で、イスラエルはパレスチナの土地78%を取得。ガザはエジプトの支配下になり、1950年西岸地区はヨルダンに併合された。



占領 Occupation

1967年、第三次中東戦争後、イスラエルは西岸地区とガザを占領し、今も占領が続いている。

西岸地区 West Bank

西岸地区は入植地やイスラエル人専用の道路、分離壁で分断され、別の街や村に行くには検問所を通らなければならない。

通勤や通学のために早朝から検問所に並ぶこともある。兵士に嫌がらせをされたり、通過が許可されないこともある。

イスラエル軍による民家や難民キャンプの急襲も続いている。

第一次インティファダ

1987年から1993年に起こったパレスチナ人による占領に対する民衆蜂起。1993年のオスロ合意で終結し、パレスチナ自治政府（PA）が誕生。

入植地 入植者による暴力

入植地とは、パレスチナ人の土地に作られたイスラエル人だけが住むことができる軍事化された町や都市のこと。国際法違反。一部の入植者は非常に暴力的な思想を持っている。入植者たちは、パレスチナ人の大切なオリーブの木を根こそぎにしたり、発砲したり、家などに火をつけたりする。イスラエル軍は入植者たちを逮捕するのではなく、むしろ護衛し、イスラエルの領土を不法に拡げている。

第二次インティファダ

2000年～2005年（終結時は係争中）。オスロ合意後も続いた占領と入植に対する民衆蜂起。2006年のパレスチナ総選挙につながる。選挙では占領の終結を訴えるハマスが勝利するが、列強はこれを認めずにハマスをテロ組織とみなし、西岸地区の自治政府として認めなかった。

オスロ合意

1993年/1995年に米国、ヨーロッパ主導で行われたオスロ合意（パレスチナ国を5年以内に建国する）は実現しなかった。日本政府もこの合意に関与した。

ガザ 包囲・封鎖 Gaza Siege

2007年から、イスラエルはガザを軍事包囲している。人口約220万人が365km²に暮し、非常に人口密度が高い。ガザの人口の80%はほかの地域を追われてきた国内難民やその子孫で、人口の約半数はこども。

包囲・封鎖でパレスチナ人は自由にガザから出入りすることができず、輸出入もイスラエルが管理。2023年10月7日以前でも失業率は40%、電力の供給はイスラエルに管理され、1日4時間のこともあった。

10月7日以降、イスラエルの攻撃で190万人が避難を強いられ、学校や病院が破壊され、支援物資の妨害などで食糧危機に直面している。

もっと知る

[本]

・イラン・パペ『パレスチナの民族浄化: イスラエル建国の暴力』
・サラ・ロイ『ホロコーストからガザへパレスチナの政治経済学』
・ガッサーン・カナファーニー『ハイファに戻って/太陽の男たち』

[動画]

◎ガザを知る緊急セミナー「ガザ 人間の恥としての」 2023.10.23.
◎D2021×CLP「ガザで一体何が起きているか-民族浄化とは何か-」 2023.12.6.

[Instagram]

日本語 @palestine.in.japanese @hanginpiu
@palestinejpn @sw_falastin
英語 @aljazeeraenglish @wizard_bisan1
@eye.on.palestine @motaz_azaiza

パレスチナのために日本からできること ↓



↑フライヤーについて